

2018年3月期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役 グループCEO

2018年4月27日



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限られるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

I. 事業概要

II. 2018年3月期 連結決算概要

III. 2019年3月期 通期業績予想（連結）

（ノート部記載なし）

I. 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5 G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出器
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2018年3月期 実績(連結) : 860億円

T&M 63%			PQA 26%	その他 11%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 32%	エレクトロニクス 23%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 20%	アジア、パシフィック 38%	米州 23%	EMEA 19%
--------	----------------	--------	----------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

II - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

➡ 減収ながら、PQAの成長で増益確保

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 2017/4発表 業績予想
受注高	889	885	△ 4	△0%	910
売上高	876	860	△ 16	△2%	910
営業利益	42	49	7	16%	44
税引前利益	36	46	10	27%	42
当期利益	27	29	2	6%	30
当期包括利益	33	39	6	18%	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年度並みの885億円、売上高は前年同期比2%減の860億円となりました。営業利益は前年同期比16%増の49億円となりました。

当期利益は前年同期比6%増の29億円、当期包括利益は39億円となりました。

Ⅱ - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)	(参考) 2017/4発表 業績予想
T&M	売上高	593	544	△ 49	△8%	610
	営業利益	21	18	△ 3	△14%	22
	(調整後営業利益)	(25)	(22)*	(△3)	(△12%)	-
PQA	売上高	196	225	29	15%	215
	営業利益	13	20	7	51%	15
その他 (含：内部消去)	売上高	87	90	3	3%	85
	営業利益	8	11	3	39%	7
合計	売上高	876	860	△ 16	△2%	910
	営業利益	42	49	7	16%	44
	(調整後営業利益)	(46)	(53)	(7)	(15%)	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*T&M調整後営業利益は、米国等でのリストラ費用4億円を控除した数値です。

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

6

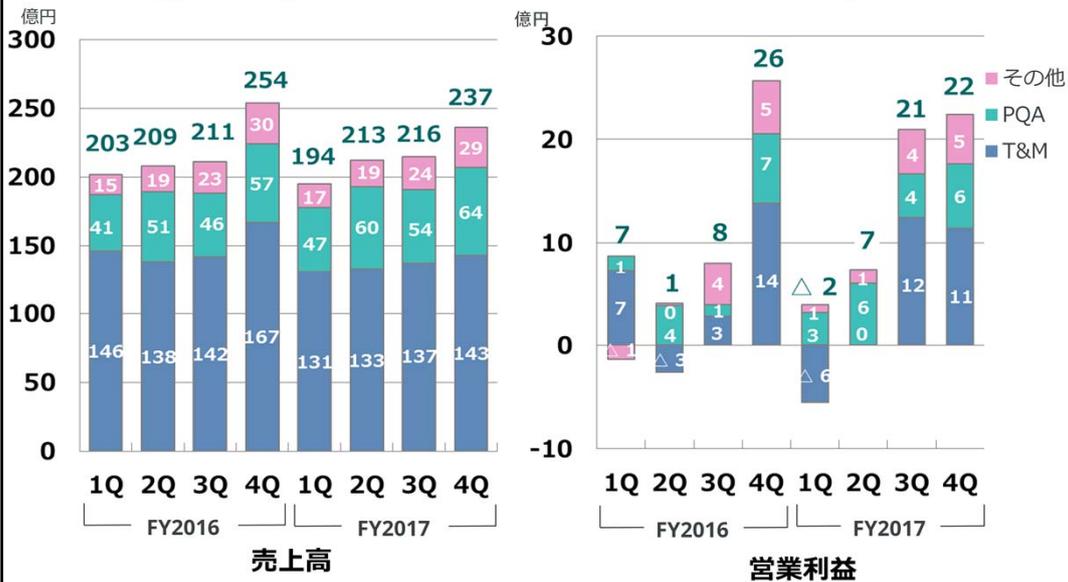
Financial Results FY2017
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業は減収減益となり、営業利益は18億円(営業利益率3.4%)となりました。一方、減収ながら調整後営業利益は公表値と同じ22億円の確保に努めました。

PQA事業は増収増益となり、営業利益は20億円(営業利益率8.7%)となりました。

Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 4Q(1- 3月)営業利益率：連結9%, T&M8%, PQA10%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

第4四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結 22億円(営業利益率:9.5%)

T&M 11億円(営業利益率:7.9%)

PQA 6億円(営業利益率:9.8%)

II - 4. 事業別営業概況

セグメント		2018年3月期（4月-3月）の状況	
<p>➡ T&M：モバイル市場の停滞続くも5G始動</p>			
モバイル	LTE-Advanced	LTE-Advanced Proへの投資にシフト	
	5G, IoT, Connectivity	5G新製品を市場投入	
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調		
アジア	スマホ製造市場全体の成長鈍化で投資抑制継続		
米州	北米オペレータの基地局関連投資が縮小		
<p>➡ PQA：国内・海外とも食品メーカーの投資意欲が旺盛に推移</p>			

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA: Products Quality Assurance

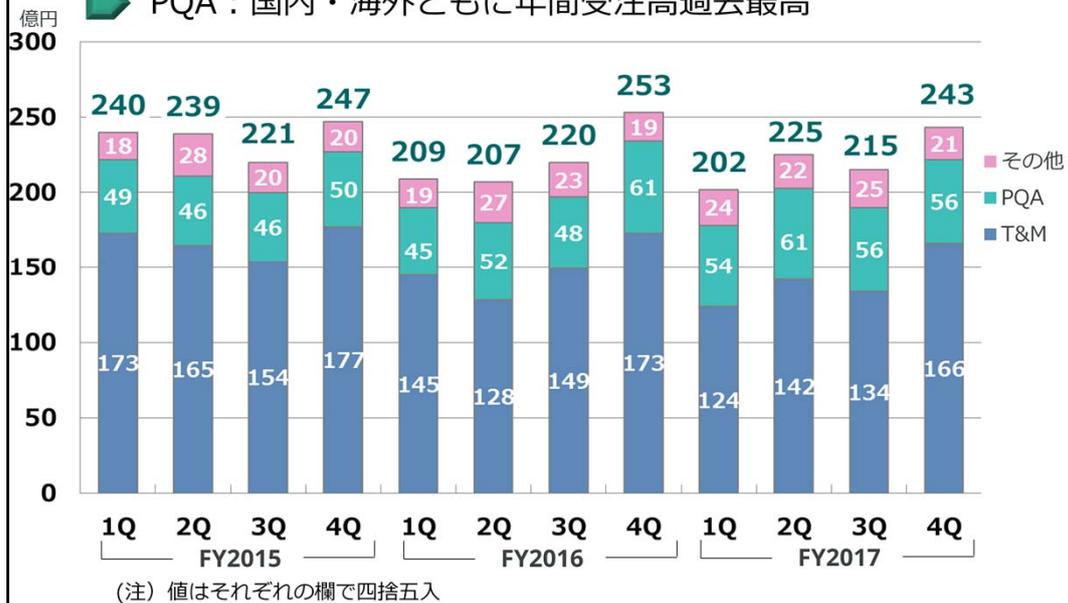
T&M事業は、モバイル計測市場の停滞は続くものの、5G NSAの標準化が完了し、5G R&D用測定器の需要が具体化してきました。

当社は、5G初期開発需要を獲得するため、2018年2月に5G NSA R&D用測定器を市場に投入しました。

II - 5. 受注高推移

➡ T&M：5G新製品がQ4受注に寄与

➡ PQA：国内・海外ともに年間受注高過去最高



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2017
Copyright© ANRITSU CORPORATION

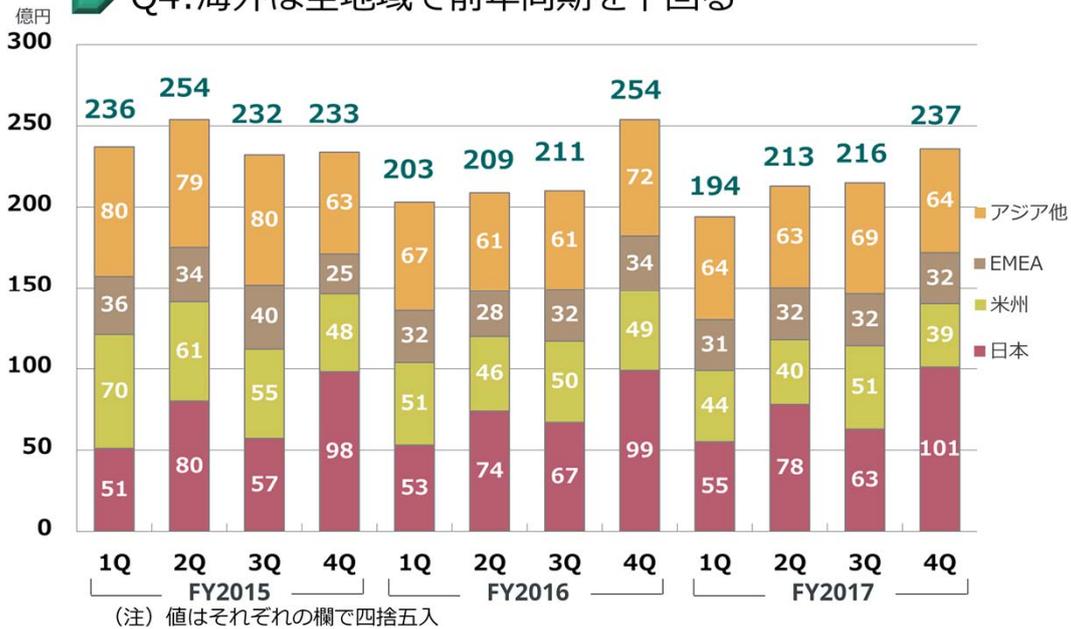
T&M事業の第4四半期受注高は、5G新製品の受注などを取り込み、第3四半期より32億円(24%)増の166億円でした(前年同期比4%減)でした。

PQA事業の第4四半期受注高は、第3四半期と同水準でした。

なお、受注残高はグループ全体で211億円(前年同期比16%増)、T&M事業では159億円(同21%増)、PQA事業では43億円(同4%増)でした。

II - 6. 地域別売上高推移

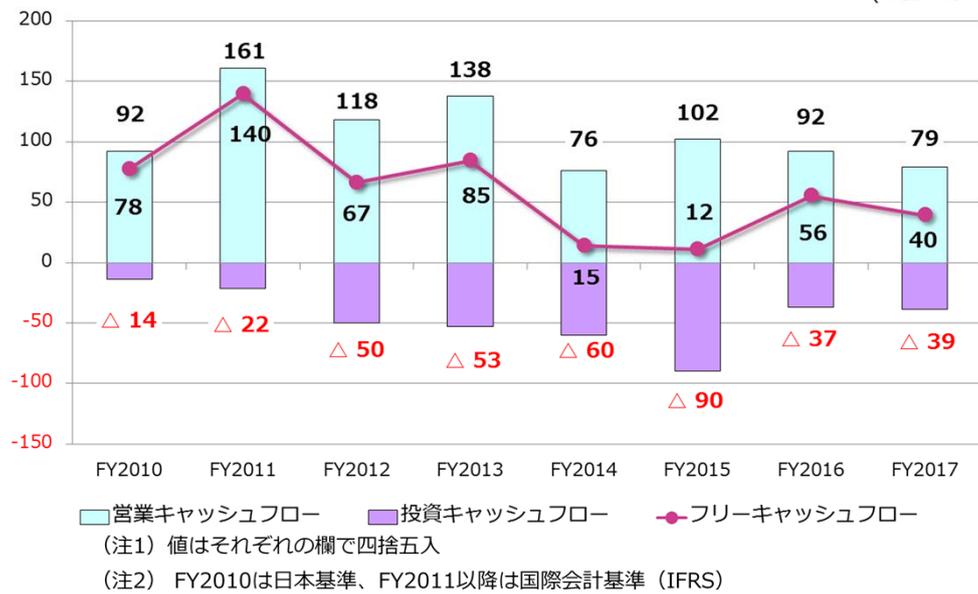
➡ Q4:海外は全地域で前年同期を下回る



日本市場は前年同期比2%増収、米州市場は20%、EMEA市場は5%、アジア市場は11%、それぞれ減収となりました。

Ⅱ - 7. キャッシュフロー (1/2)

(単位：億円)



運転資本の効率化等により、営業キャッシュフローを着実に獲得しています。2015年度は、グローバル本社棟の建設を含む有形固定資産の取得による支出が主なものです。

II - 7. キャッシュフロー (2/2)

➡ 営業CFマージン率9.2%

FY2017 (累計)

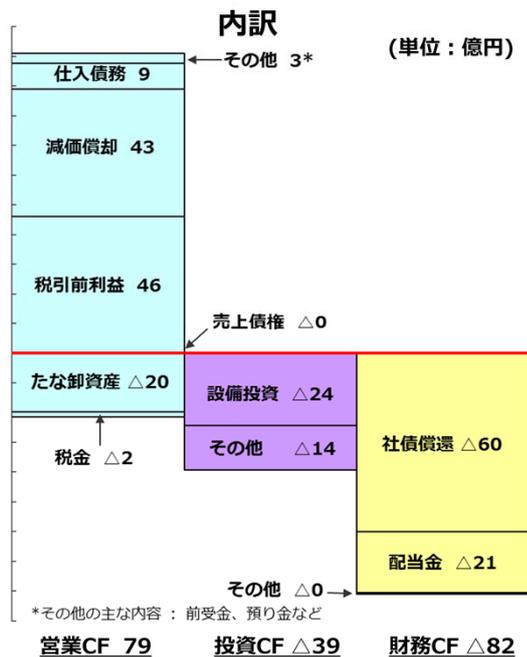
- ① 営業CF : 79億円
- ② 投資CF : △39億円
- ③ 財務CF : △82億円

フリーキャッシュフロー
(①+②) : 40億円

現金同等物期末残高
355億円

有利子負債高
159億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、79億円の資金獲得となりました。
投資キャッシュフローは、39億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは40億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフロー 資金支出82億円の主なものは、普通社債の償還60億円と配当金の支払い21億円(1株配当 6月:7.5円、12月:7.5円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より42億円減少の355億円となりました。

Ⅲ-1. 2019年3月期 通期業績予想（連結）

➡ GLP2020の初年度として成長のための基盤を確保

		2018/3期		2019/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		860	920	60	7%
営業利益		49	66	17	34%
税引前利益		46	66	20	43%
当期利益		29	50	21	72%
T&M	売上高	544	600	56	10%
	営業利益	18	35	17	92%
PQA	売上高	225	235	10	4%
	営業利益	20	20	0	2%
その他 (含：内部消去)	売上高	90	85	△5	△5%
	営業利益	11	11	0	△1%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) FY17為替レート : 1米ドル111円、1ユーロ=130円
FY18想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

Anritsu envision:ensure

13

Financial Results FY2017
Copyright© ANRITSU CORPORATION

2019年3月期の通期業績の見通しは上記のとおりです。

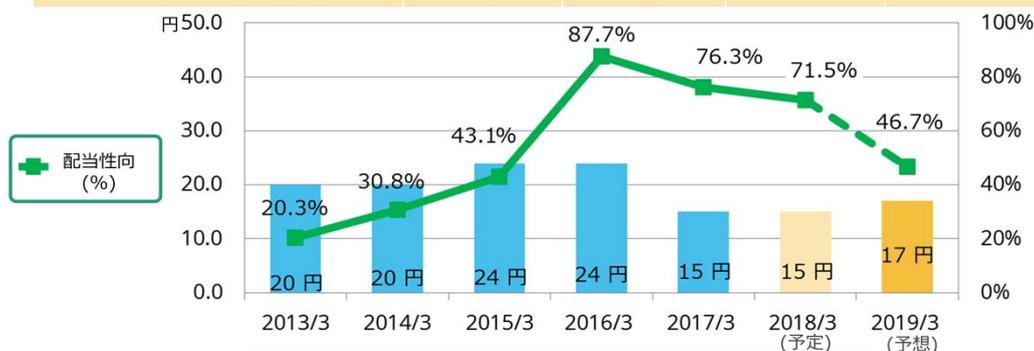
T&M事業の売上高は、5Gの初期開発需要を確実に獲得することで、前期比10%の増収、営業利益は92%の増を見込みます。

PQA事業は、前年度に引き続いて、国内外の食品・医薬品市場における品質保証ニーズを、最適なソリューションの投入で確実にとらえて、売上高235億円を目指します。営業利益は、海外市場拡大のための投資を重点的に行うため、前期並みの水準にとどまる見込みです。

Ⅲ- 2. 配当予想について

年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE
2019年3月期 (予想)	17円	50億円	46.7%	3.0%
2018年3月期 (予定)	15円	29億円	71.5%	2.7%



3年間の 総還元性向	GLP2014 (FY2012~FY2014)	GLP2017 (FY2015~FY2017)
	45.4% (自己株式取得50億円含む)	79.4%

Anritsu envision:ensure

14

Financial Results FY2017
Copyright© ANRITSU CORPORATION

当社は、株主の皆様に対する利益還元について、連結業績に応じるとともに、総還元性向を勘案した利益処分を行うことを基本方針としております。剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることが基本にしつつ、連結配当性向30%以上を目標としており、株主総会決議もしくは取締役会決議により、期末配当及び中間配当の年2回の配当を行う方針です。

次期の配当は、次期業績見通しの達成を前提として、1株当たり年間17円(うち中間配当8.5円)を予定しております。



(ノート部記載なし)